

1. 昨年度までの取組

- ①資料の吟味, 活用
- ②道徳授業の日常的な交流
- ③TT を含む指導形態の工夫
- ④価値の焦点化
- ⑤特別支援における道徳
- ⑥評価方法の工夫

成果

- ・教師も子どもも道徳の授業がわかってきた。
- ・道徳で培ったものが, 学級経営や他教科でもあらわれてきている。
- ・友達の考えを受け入れようとする傾向がみられる。

本音を言える雰囲気！
自分ごととして考えられるように！

課題

- ・展開後半の工夫（自分事としてとらえさせる）
- ・評価（励みになる見取りや評価）
行事や児童会等の関連

本音を言えるようにはなってきたが

実生活に生きていない…
実践につながらない…

2. 主題と仮説

研究主題

主体的・意欲的に学び、
つながり合う心豊かな子どもの育成
～多面的・多角的な追究を通して、
より自分ごととしてとらえる豊成の道徳～

仮説

多面的・多角的に追究する学び合いを学習過程に位置付けることで、より自分ごととして価値を深めることができ、日常生活につながる道徳性を養うことができるであろう。

3. 仮説検証の手立て

手立て①「多面的な追究と多角的な追究」「発問の工夫」

「より自分ごととしてとらえるための学び合い」の充実に向けた研究を深めていくために、「多面的な追究＝資料を読む」「多角的な追究＝当事者の立場に立って考える」場を学習過程に位置付けることとした。

具体的な手立てとして、今年度は、発問の工夫・発問の精選を行うこととした。

「自分ごととして考えるには、いかに資料から早く離れるべきか。」という議論も行われているが、「他人ごと」である資料を生かしてこそ、「より自分ごと」として、ねらいとする価値をとらえることができると考えている。

1. 「多面的な追究」と「多角的な追究」のとらえ

資料を**多面的（読解・分析）**に読む＝「人ごと」**共感的発問**

一つのことからについて、見る側面を変えたり多くの人の見方を生かしたりして、比べ合い深め合うこと。



当事者の立場に立って**価値観や生き方を多角的に考える**
＝「自分ごと」**投影的発問，批判的発問**

一つのことからについて、自分の考えの主張や生き方の選択肢などについて、自分を起点に考え明確にすること。

多面的な追究		多角的な追究
多様な側面から見る思考（あるものを外側から考える）	思考	多様な角度から見据える思考（自分を起点として考える）
資料から考える場面	展開	自分ごととして考える中心発問場面
主人公の心情や考えを想像する		自分はどうか考える。自分自身の見方や考え方、生き方を浮き彫りにする。
共感的発問，分析的発問	発問	投影的発問，批判的発問

2. 発問の工夫～発問の種類（例）～

【共感的発問】

- ○○はどんな気持ちか。
- ○○はどんな思いで～をしているのか。

【分析的発問】

- ○○はなぜ～したのだろう。
- ○○とは何だろう。
- A と B ではどちらが○○だと思うか。

【投影的発問】

- 自分が○○ならどう考えるか。
- 自分なら○○のようにできるか。
- 自分ならどうするか。

【批判的発問】

- ○○について（行為）どう思うか。
- この□□（価値）をどう考えるか。

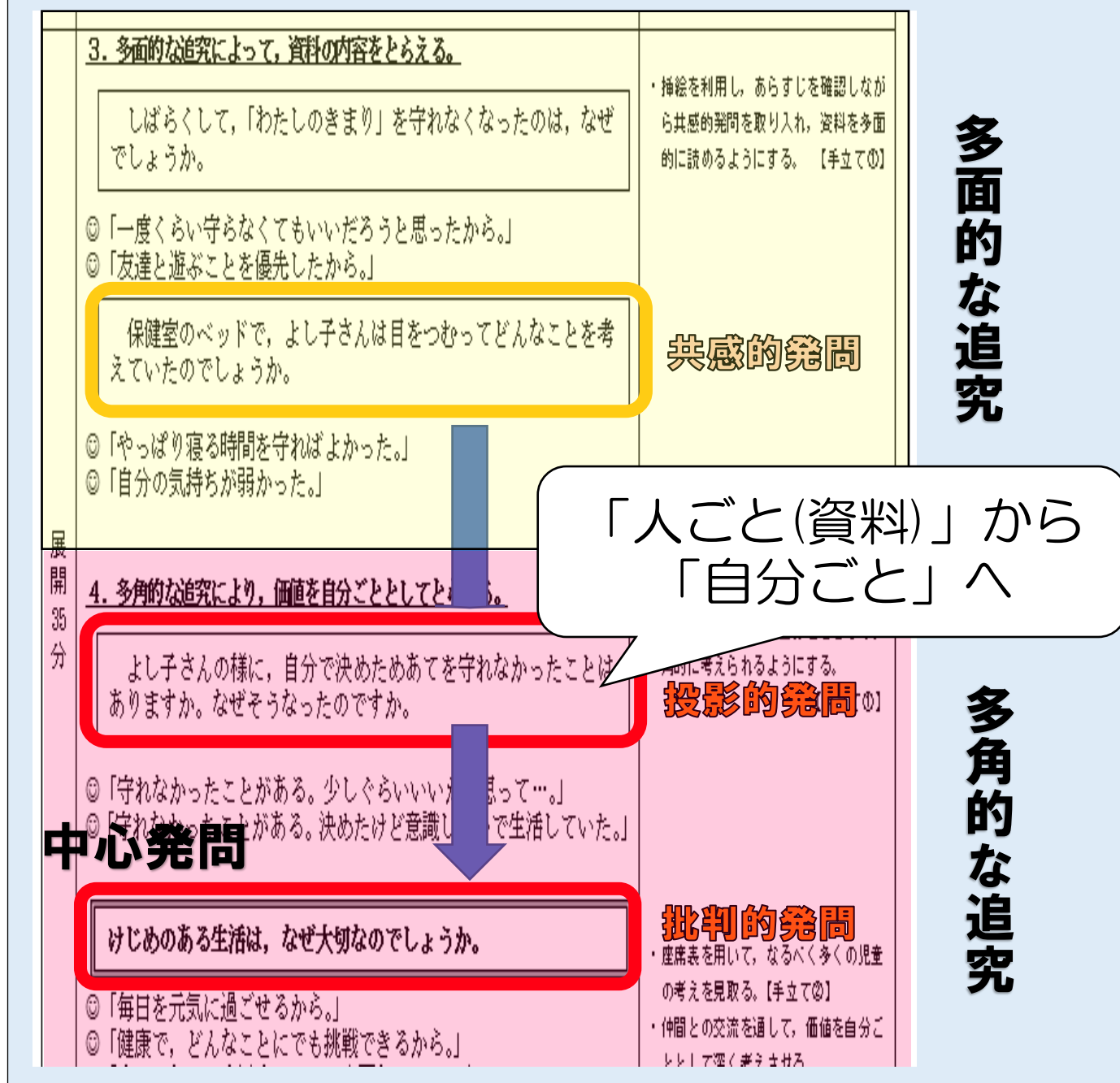
【ふりかえりの発問】

- 一番心に響いたことは何か。
- □□について大切にしたいことは何か。
- 友達の考えで印象に残ったのは何か。

発問は、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問を心掛けることが大切。発問を考える場合は、まず授業のねらいに深くかかわる「中心的な発問」を考え、次にその発問を生かすための発問をいくつか考え、全体を一体的にとらえられるように構成を工夫する。



3. 1時間の授業の中で【研究部提案授業より】



多角的な追究は、子どもが登場人物など当事者の位置に立って、ねらいとする価値観や生き方をどちらの角度に向けるかを考える学び合いとしてとらえている。

そのため、中心発問については、学年の発達や内容項目に応じて、

(例)「自分が〇〇だったら、□□に何と言いますか。」といったような「教材の人物への共感を重視した発問」の場合も考えられるし、

(例)「△△について、あなたはどのように思いますか。」といったような「教材の主人公から離れて自分を見つめる発問」の場合も考えられる。

「人ごと」である資料を生かしてこそ、「より自分ごと」として、ねらいとする価値をとらえることができると考えているため、中心発問のパターンは一つに決めず、多様なパターンで検証している。

手立て②「子どもの励みになる評価の取組」

本校では、評価の観点を2点設定しており、1時間の授業の中で、観点①を「追究する価値を自分ごととしてとらえる、中心発問の段階」に位置付け、「自分なりの意見をもち多様な考え方ができたか」を、観点②を「終末部分ふりかえりの段階」に位置付け1時間の授業を通して、「価値の理解を深め自分ごととしてとらえているか」を評価している。

観点①多面的・多角的な見方へ発展しているか

「自分なりの意見をもち、多様な考え方ができたか。」

評価ツール

- ・道徳ノート
- ・ワークシート
- ・名簿表
- ・座席表 等

観点②価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか

「道徳的価値について考え、自分自身とのかかわりの中で深めているか。」

蓄積された見取りからの評価例

①多面的・多角的な見方へ発展しているか

様々な視点からとらえ考えようとしているか？

中心発問

☆自分なりの意見をもち、多様な考え方ができたか。（道徳ノート・発言）

自分と違う感じ方を理解しようとしているか？

- ・〇〇についての心情を様々な視点からとらえたり、自分でしっかり考えて行動しようとしたりし、思考の深まりが感じられました。
- ・道徳的価値が対立する場面において、様々な立場に立った考えを発表していました。
- ・自分の考えを進んで発表したり、友達に質問をしたりして、考えを深めていました。

②価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか

終末

☆「希望と勇気」について考え、自分自身とのかかわりの中で深めているか。（道徳ノート・発言）

1時間の授業を通して、道徳的価値の理解を深め、自分事としてとらえようとしているか？

- ・自分の経験から、行動に移すことの難しさについて考え、それを克服するための方策や努力の大切さについて発表していました。
- ・葛藤する主人公に自分を重ね、授業で考えたことや学んだことを生活に生かそうとする意欲が感じられます。
- ・友達との交流から、（価値についての）新たな考えをもち、自分の考えを深めていました。

評価の積み重ねにより横断的かつ縦断的に、子どもたちの成長の様子を継続的に把握することができる。いずれの方法の場合も、何を見て評価したのか、特に着目した点について視点を決めておくと、あとからふりかえることができる。

○実際に評価として使われている補助簿の一例。

関・発・ノ ① 言わないとモヤモヤ ② 相手に感しや したい。	関・発・ノ ① 心もほっとする いいことした気分 ② 「ありがとう」と言 われるようなことを したい
関・発・ノ ① ② みんなにずっと ありがとう言いた	関・発・ノ ① 相手いい気持ち 自分もうれい。 ② 心と心をつなぐ まほうの言葉 なれよくうれくなる

2つの観点ごとに評価しています。ファイルで保管することにより比較することができる。

2019年

$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$
$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$
$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$
$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$

2018年

$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$
$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$
$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$
$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$	$\sin^2 \alpha + \cos^2 \alpha = 1$

観点①

中心発問「自分に不利なことでも相手に教えることができますか」に対する子どもたちの考え。

○…教える, ×…教えない

良	・	発	・	○		
良	・	発	・	ノ	○	
良	・	発	・	ノ	○	友だちは孝太に気がいい。
良	・	発	・	ノ		
良	・	発	・	ノ		
良	・	発	・	○	○本気でやあはれががいい	本気でうしろ向きな人。
良	・	発	・	○	○本気のイ西人	まじめな気持ちで努力している。
良	・	発	・	○	X何かがきつそう。	
良	・	発	・	ノ	○本気のイ西人	
良	・	発	・	ノ	欠	
良	・	発	・	ノ	○自分の満足。	みんなが楽しく満足に
良	・	発	・	ノ	○	
良	・	発	・	ノ		
良	・	発	・	ノ		
良	・	発	・	ノ		
良	・	発	・	ノ	X相対的自分のため	
良	・	発	・	ノ	○	
良	・	発	・	ノ	欠	
良	・	発	・	ノ	○	
良	・	発	・	○	X 1回くらい。千代	(本) 自分(おともちゃん)。自分からいってくる

観点②

ノートの振り返りからの評価。

授業中、子どもたちの様子を○で評価するだけでも、授業展開にも生かせるタイムリーな評価となる。

授業中、子どもたちの様子を○で評価するだけでも、授業展開にも生かせるタイムリーな評価となる。

表		主菜肉					
飛表	①		◎				
○	れき						
*	来い ふか	暗い					
○			性格	前向き?			
○			努力	努力しても			
○				変われないこと自分			
			礼儀	正しい。大見出	正しく。		
○							
○							
			自分の	できること	自分でやる		
○							

授業中の評価…ピンク、ノートでの評価…赤
とペンの色を変えるだけで、子どもの変容がわかるし、教師があ
とから授業を振り返る手掛かりにもなる。

項目は先生方のアイディア次第。中心発問での子どもたちの心の動きをメインに見取っている。

○全教職員による「チームで行う評価」

クラブ活動

クラブ活動 ふりかえり用紙

クラブ
年 組 名 前
がんばったこと、楽しかったこと、うれしかったことなどを書きましょう。
◎クラブの先生から 担任の先生へ

たてわり班活動

たてわり班活動の様子・反省

◇次のような様子が見られたらお知らせください。

- ・リーダー学年として頑張りが見られた。
- ・交流を深めるようなはたらきをしていた。
- ・助け合って活動していた。
- ・進んで働いたり、楽しんで活動していた。
- ・話しあい活動で積極的に発表していた。
- ・配慮を要する様子がみられた。

年 組	名 前	活動の様子
		リーダーとして、2年生のめんどうを見てくれた。小さい子のあつかが上手く指示がわかりやすい。一つ一つの確認もしてくれる。とてもがんばっています。

昨年度は、指導工夫の一つとして、T.Tを活用した評価にも取り組み、T2 が板書の補助や交流場面での見取りを協力して行うことで、T1 が子どもたちと向き合う時間をしっかりとれるという成果があげられた。道徳の時間以外でも、クラブ活動やたてわり班活動において、全教職員が子どもたちの見取りを行うことで、がんばりや成長を共有することができる。

○道徳ノートによる「自らの成長を実感できる評価」

全校で「道徳ノート」を活用することにより、教師が短期的・長期的な子どもたち一人一人の変容を見取るだけでなく、子どもたち自身も、自らの成長を実感することができる。

同一児童による、道徳ノートの変容（「生命尊重」）

5年 命
「人類愛の金メダル」

命とはどんなものより大切。たったひとつの命。一人ひとつしかない命。自分一つしかない命。

6年 命の大切さ
「お母さんへの手紙」

いろいろな人の支えによって自分の命がある。今日の勉強で、とても、命の大切さ、亡くなってしまう人の思いがよくわかった。

→

手立て③「各教科，行事と関連させた全校道徳の取組」

①今まで...年3回の「はあとふる集会」にあわせて
いじめ防止・夢の実現・命



②各行事にあわせて「運動会」「避難訓練」
「学習発表会」「卒業式」
努力と強い意志・生命の尊さ・よりよい学校生活・感謝

運動会に向けた取組

- 1年生…頑張る心
「うかんだうかんだ」
- 2年生…粘り強く頑張る
「ぼくはのび太でした」
- 3年生…めあてに向かって
「一りん車にのれた」
- 4年生…くじけず最後まで
「ぼくのへんしん」
- 5年生…希望をもって
「ベートーベン」
- 6年生…努力の尊さ
「夢」

希望と勇氣、努力と強い意志A—(5)

第1回 はあとふる集会 に関する取組

- 1年生…ともだちっていいな
「こころはっぱ」
- 2年生…助け合う友達
「森のともだち」
- 3年生…友達と信頼し合う
「なかよしだから」
- 4年生…友達のよさを知る
「ぼくだってオーケストラ」
- 5年生…友情・信頼「心のレシーブ」
- 6年生…友達と理解し合う
「ばかじゃん」

友情、信頼B—(9)(10)

児童会との連携

「ハッピースクールプロジェクト」

いじめ防止標語づくり
いじめのない学級づくり

4. 各部の取組



低学年部会

部長…吉村先生，副部長…森先生

目指す子ども像&授業像

- ・資料の価値を理解し，自分ごととしてとらえる子ども。
- ・他者と考えを交流することで，新しい見方を得る子ども。
- ・特別活動や日常生活と，道徳の授業を結び付けて考えられる子ども。
- ・発問の工夫，交流の工夫，日常的な言葉掛けが必要。
- ・低学年ということで，「理解のステップ」の最初の段階を特に丁寧に扱ったり，問い返しを行い価値の理解を深めたりすることが低学年では必要。

その他

- ・補助簿や座席表の扱いについて。「道徳の評価」なのか「授業展開に生かす見取り」なのか？



中学年部会

部長…八重柏先生，副部長…蜜石先生

目指す子ども像&授業像

- ・本音を語って実生活に生かせる子ども。
- ・授業だけで学びを終わらせない授業。
- ・資料の吟味や発問の吟味を通して，本音を語れる授業。
- ・子どもたちが自分ごととして考えられる資料かどうかの吟味。

その他

- ・授業内でのいい意見を，実生活に生かすには？



高学年部会

部長…新田先生，副部長…馬場先生

目指す子ども像&授業像

- ・道徳的価値を実践につなげ，成長を自覚できる子ども。
- ・全員が言いたくなり，発言内容にも広がりが見えるような授業。
- ・道徳ノートによる振り返りや，特別活動・行事において，自分の成長を自覚できるような実践。

その他

- ・中心発問に対する反応（意見）が，偏ってしまう…
- ・あゆみにつなげる評価方法について。